

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定会議（外部委員会）

令和7年度第4回委員会議事録

日時令和8年(2026年)1月9日(金)

13:00~15:00

会場鎌倉商工会議所 301 会議室 (zoom 併用)

1. 出席者

委員長	金子雄一郎（社会資本マネジメント）
副委員長	勝地弘（道路）
委員	出雲淳一（道路）
	堀江信之（下水道・河川）
	飯田晶子（公園・緑地）※zoomによる出席

鎌倉市

事務局

都市整備部	森部長
都市整備部（下水道河川課）	杉浦次長
都市整備部（都市整備総務課）	高橋次長
都市整備総務課	横山担当係長
	山口

施設所管課

環境部（環境施設課）	不破次長、鬼頭課長補佐
道水路管理課	伊藤課長
道水路調査課	下澤課長
道路課	秋山課長
下水道経営課	岩崎課長
農水課	菊池課長
作業センター	小田切所長
浄化センター	森田所長

事務局（コンサルタント）

八千代エンジニアリング株式会社※zoomによる出席

2. 議事

- 1 諮問
- 2 将来経費について
- 3 計画改訂（素案）（案）について
- 4 その他
 - ・今後の予定など

3. 委員会資料

- ・ 資料1 令和7年度第4回委員会説明資料
- ・ 計画概要版素案（案）
- ・ 計画素案（案）

4. 開会あいさつ等

～開会、資料確認、傍聴者入室について確認～

～傍聴者入室～

～令和7年度第3回委員会（令和7年（2025年）11月11日）の議事録確認～

- ・修正なしで確定することとした。

5. 審議内容

(1) 1 諮問

～市長から計画改訂素案に係る諮問～

(2) 2 将来経費について

・事務局：—資料1 説明—

- ・委員長：ありがとうございました。ただいまの説明に対しまして、ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。
- ・委員：試算にあたり、物価デフレーターとして1.3程度を見込んでいるとのことですが、そうすると、実際の施工時に、予算は実質的に目減りするのではないのでしょうか。
また、11ページにおいて40年間の維持管理費が一定となっていますが、本来であれば増えていくのではないかと思います。一定とする考え方について教えてください。
- ・事務局：今回お示ししている金額は現在の価値に補正したものであり、将来の物価上昇は見込んでいません。そのため、物価が上昇した場合には今以上の経費が必要となります。計画内では、過去の物価上昇傾向が今後10年間継続した場合についても、参考ケースとして提示する予定です。
また、維持管理費についてですが、予防保全が進むことで事後保全的な緊急修繕対応等が減少することが理想ではありますが、気候変動等の外部要因で増加する可能性もあり、予測が難しいため、直近の平均が今後も継続するという考え方を採用しています。
- ・委員：予防保全を行うことによって維持管理費が下がる可能性があることについては、どこかで示した方が市民の方も理解しやすくなると思います。
- ・委員長：気候変動という話がありましたが、災害などの緊急対応に関する費用は、支出実績にも将来経費試算にも含めていないという理解でよろしいでしょうか。
- ・事務局：はい。災害対応等の費用は除外して集計、試算していますが、気候変動の影響による長期降雨によって倒木等への対応経費は増加する可能性があります。
- ・委員：現在、個別計画がない施設で、今後、維持管理の計画や投資計画が策定されることで将来推計が変わる可能性のある施設はありますか。
- ・事務局：現状、河川と雨水調整池には個別計画がありません。これらについては、まず予防保全の計画を策定することを今後の施策として位置付けています。
- ・委員：計画はいつ頃に策定する予定ですか。
- ・事務局：本計画改訂後、早急に着手し、少なくとも次回の改訂の5年後ないし10年後には策定できていることと考えています。
- ・委員：点検など維持管理に係る計画を策定することで、将来推計について、過去の実績が継続するという試算ではなく、より具体的な見通しが立つものと思いますが、今後策定予定の維持管理計画はありますか。
- ・事務局：雨水調整池については、今年度、職員による点検を実施しており、優先順位付けを行っている最中です。自然流下ではなくポンプ式の雨水調整池のうち、水が溜まっているもの

を優先的に対応する方針です。このような状況が整理できれば、来年度から予防保全に向けた計画策定に着手したいと考えています。

- ・ 委員：グラフの見せ方について、実績値と改定後の試算結果がどちらも水色で、同じ色で示されているため、意味合いの異なる数値であることが分かりにくく感じます。色を分けた方がよいと思います。
また、将来推計について、実績が計画を下回ってきたにもかかわらず、改定後の試算ではさらに経費が増加しています。これまで、計画の予算を使い切らずにきた部分について、将来的にはスピードアップをして計画を進めていくという考えでしょうか。
- ・ 事務局：グラフの色使いについては見直します。また、実績が計画を下回った要因は、予算を使い切らなかったというよりは、予算や人員の不足に加え、個別計画の策定に伴う点検により実際の劣化状況が把握でき、当初の推計よりも費用が下回ったケースも含まれます。今後は、遅れが生じている施設への対応をどう取り戻すかが課題であると認識しています。
- ・ 委員長：予算確保ができなかったという理由だけでなく、点検未実施により計画が策定できず、予算化に至らなかった要因もあるかと思っています。次の10年で不足分を本当に実施できるのか、実効性に関する検討を行い、市民向けにも説明する必要があると感じます。また、昨今の物価上昇を考慮すると経費はさらに増えるため、その点についても説明が必要です。
- ・ 委員：計画は作成して終わりではなく、実行し、改善していくことに意味があります。過去の投資が計画を下回った要因として、インフラを作り替える計画は複雑な調整が必要である一方で、それに対応できる技術職員が不足している状況があります。日進月歩で技術革新が進んでいるため、それらを踏まえた計画を立てられるかどうかで将来経費も大きく変わってきます。計画を立てるだけでなく、計画をどのような体制で推進していくかまで考えれば、PDCAの「C」と「A」が動くこととなります。Pだけで終わらないために具体的にどうしていくのかをしっかりと内部で議論して、計画に盛り込んでいただきたいと思います。
- ・ 委員長：昨年度から施設ごとの振り返りを行い、計画通りに進まなかった要因を分析した上で今回の試算を行っているという理解していますが、現状より10億、20億プラスしての予算を確保することは難しいと思います。予算制約がある中で、どのように対応していくかについては検討しなければならないと思います。
- ・ 事務局：前回の計画策定時は現状把握から始めましたが、現在は概ねの施設について計画を策定し、経費を積み上げています。個々のインフラがそれぞれ必要経費を積み上げて合算するだけではなく、インフラ分野を横断的に見渡せるような組織を作っていきたいと考えており、そのような体制のなかで、全体的なバランスと必要性に基づいて優先順位をつけることを計画に盛り込んでいきたいと考えています。
- ・ 副委員長：11ページの補修更新経費のグラフで、道路の舗装費が長期的に倍増以上となっていますが、これは予防保全に必要な経費という理解でよろしいでしょうか。また、グラフにある「平均」の赤い線に対応する数値が右の表に記載されておらず、分かりにくいように思います。
- ・ 事務局：道路舗装については、一定の管理水準（MCI）を下回らないようシミュレーションを行った結果、令和22・23年頃に対策工事が集中し、経費が増加する試算結果となっています。平均値の記載については、分かりやすくなるよう追記、修正いたします。
- ・ 道路課：道路舗装については、令和11年度頃から約15億円の対応が必要と試算されていますが、人的にも対応が難しい課題があります。新技術の活用や効率化の工夫により、費用の平準化と先送りを図る施策を計画に位置付ける必要があると認識しています。
- ・ 委員長：道路は市民に最も身近な施設です。今お答えいただいたような工夫をされることで、出来る限り進めていただければと思います。

(3) 3計画改訂（素案）について

- ・ 事務局：—計画素案概要版について説明—
- ・ 事務局：今後のスケジュールとして、本日いただいた意見を反映した修正案を整理し、1月24日からパブリックコメントを実施する予定です。並行して実施する庁内意見照会と、パブリックコメントによる意見を踏まえて修正を行い、年度内の改訂を目指しております。委員の皆様にも引き続きご意見等いただければと思います。
- ・ 委員長：1月24日からパブリックコメントにかけるということで、章が変わるなど、構成が変わるような修正は想定していないということかと思いますが、委員の皆様、お気づきの点などあればご意見を頂きたいと思います。
- ・ 委員：概要版の最後に「全体最適」や「個別最適」という言葉が出てきますが、何を最適化するのが分かりにくいと感じました。
- ・ 事務局：個別最適は、施設ごとに最適な状態を検証することです。一方、全体最適は、予算や人員に制約がある中で、鎌倉市全体のインフラの中で最優先すべきものを見だし、そこに人とお金を投じていくことを考えています。
- ・ 委員：昨年、八潮市で下水道の陥没事故があり、その後、国土交通省などでも対策会議が行われました。現在、各市町村の現状を国土交通省がデータ化しており、各市町村の下水道の老朽化率などはパソコン等で誰でも見られる状況になっています。概要版の9ページにある下水道の老朽管率についても、現状の数値だけでなく、「将来的にはどのくらいにしたいか」という具体的な目標数値を盛り込んだ方がよいのではないのでしょうか。実際のところ、そうしたデータは既に市としても把握できているはずですが。
- ・ 事務局：個別施設の具体的な詳細な水準等については、個別計画の方にお任せしたいと考えております。本計画は、あくまで市全体の総合的な方針や目標、考え方を整理したものという位置付けになります。ご指摘のようなデータについて、資料編にどこまで載せるかについては、今後ある程度の整理が必要であると考えております。
- ・ 委員：先ほどの「最適化」の話にも関連しますが、この計画で「何をしたいのか」、「何を目指しているのか」を、市民にも分かる言葉で具体的に明記すべきです。「計画をうまく実施できればこうなる」というイメージが伝わる目標を最初に掲げることで、将来さまざまな変化が起きても、部門間で「10年後に目指していたのはこれだ」と立ち戻って議論できます。
また、インフラマネジメントの世界標準では、「パフォーマンス（インフラの機能）」、「コスト」、「リスク」という、相反する関係にあるこれら3つを、現在の状態から将来を見据えて、最適なバランスを取り続けることが、最終的にインフラの「全体最適」につながることを示されています。この計画の最終的な目標は「市民に必要なインフラ機能を今後安定的に維持し続けること」であり、そのために「ヒト」「カネ」「情報」といったリソースを運用していくという、インフラ運営の基本となる考え方を分かりやすく記載してほしいと思います。
- ・ 委員長：ごもっともなご指摘だと思います。具体的には第3章が基本方針にあたりますが、第3章の「3.1 インフラ管理の目指すべき姿」などに、今ご指摘いただいたような内容がある程度書かれています。現行計画を基に整理・統合したのですが、この部分に、インフラマネジメントの基本となる考え方を加えていくようなイメージでしょうか。また、それを受けた第4章が施設別のマネジメント計画となっており、管理体制、生産性（DX）、予防保全の推進といった3つの重点施策が挙げられ、その下の「4.2 今後の主な施設別施策」がそれに対応する形になっています。委員が指摘された内容は、主にこの第3章や第4章あたりに盛り込んでいくのが適切かと思いますが、その辺りの説明をもう少し加えたほうがよいと思います。
- ・ 委員：概要版について、図表と文章の対応を明記し、読みやすくしていただきたいです。また、実績と将来推計との乖離に関して、乖離の要因だけでなく、今後市としてどう対応してい

くのかという方向性を記載しないと、市民の方々が不安に感じられると思います。さらに、「最大の課題である『ヒト』と『カネ』の制約」という記載は、実態としては確かにそうなのだと思いますが、管理者の視点が強く出すぎた表現のように感じられますので、市民目線の課題感も意識した表現を検討されてはいかがかと思います。

- ・ 事務局：概要版における図表の説明追加と、乖離に対する今後の対応の方向性の記載については追記・修正いたします。表現についても検討したいと思います。
- ・ 副委員長：概要版の7ページにある不足額の「施設実態に合わせた精査」という記載について、抽象的なため、具体的な記載を検討されてはと思います。
- ・ 事務局：不足額は原則として将来経費に加算しますが、一部見直しを行ったという趣旨です。表現については見直します。
- ・ 委員長：市民の方にとって理解しやすい内容とするためには、計画の内容を、計画に直接関係のない部署の方にも読んでいただき、わかりにくい記載について客観的な意見をもらうなどしてはいかがかと思います。
- ・ 委員：第1章と第2章の間、あるいは第2章の冒頭に、これまでの「計画の評価と効果」を明確に記載してはどうかと思います。インフラの現状が把握でき、地に足のついた議論ができるようになったことや、部門間で議論する機会が増えたこと、予防保全への移行が進んで投資不足の縮小可能性があることなど、大きな成果や効果を冒頭に記載すべきです。
- ・ 事務局：ご指摘の通り、これまでの計画の振り返りや効果について、第1章あるいは第2章の冒頭にまとめたいと思います。
- ・ 委員長：これまでの議論を整理しますと、図表と文章の対応を明確にし、市民の視点も考慮した表現とすること、第1章などにこれまでの計画の評価と効果を記載すること、第2章の将来推計と実績の乖離については、要因だけでなく今後の対応方針を記載すること、第3章よりも前に、インフラ管理における「リスク・コスト・パフォーマンス」の相反する関係と、そのバランスを取るという「全体最適」の基本的な考え方を記載すること。これらの点について、パブリックコメントに向けて修正をお願いします。

(4) 4 その他

- ・ 委員長：議事全体としてよろしいでしょうか。最後に事務局から今後の予定をお願いします。
- ・ 事務局：パブリックコメント終了後、次回は3月23日に委員会を開催し、パブリックコメントの報告と対応方針の整理、計画案の確定を行う予定です。年度末のお忙しい時期になりますが、よろしく願いいたします。

6. 閉会

- ・ 委員長：本日はどうもありがとうございました。これをもちまして終了いたします。

以上